

令和4年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和4年8月24日（水）

地 区 錦岡地区

会 場 スプリングタウン総合福祉会館

<意見交換>

◆市民 座ったままでいいですか。

○司会 どうぞ。

◆市民 錦西町内会の■■■と申します。

今のハザードマップの機能のところのシミュレーションでは、錦西町内会の一番南側の人たちが避難開始したら、津波にのみ込まれるという話しましたよね。それで、そのことはどういうふうに市としては考えているのか、お伺いしたいと思います。

○司会 それでは、回答をお願いします。

◎危機管理室長 改めまして、市の防災を担当しております、危機管理室の前田でございます。ご質問いただきまして、ありがとうございました。

先ほどのシミュレーションを見ていただいて、水平避難をしようと思うと津波に追いつかれてしまう、そうすると、そういう地域に対しては、先ほど津波避難の原則、2つお話しさしあげましたけれども、もう一つの原則ですよ、高いところへ避難する、そういうところを今度はいろいろと検討していかなければならないと。多くは学校ですとか、そういうところがそういう場所になるんですが、なかなかそこでは遠いところがございます。ですので、そういうところは、例えばほかの民間の建物ですとかそういうところ、3階以上の建物ですね、そういうところを今我々、いろいろと、市の公共施設以外のももありますので、民間施設もありますので、そういったものについてもこれから並行していきながら、協議を進めていきます。その結果、そこが使えるということでありましたら、津波避難ビルとしてお使いいただける、そういうことも今並行して進めているところであります。

先ほどお示したものは、今のままでこういう避難ですということをお話ししてはいますが、先ほどもご説明しましたとおり、これはもうふだんの、そういう努力をしていって、取組をしていって、改善していこうと思っておりますので、水平だけが難しいところについては、垂直避難を取り組んでいくような取組を進めていきたいというふうに考えております。以上です。

◆市民 今の件について、我々、前から危機管理室のほうに、北洋大学だとか、元のアパート、雇用促進住宅、ああいうところを使わせてもらえないかと市に言ってるんですよ。その辺、今検討してる段階、一応言っている、大学のほうにもう言ってる、どちらですか。

◎危機管理室長 ありがとうございます。今のお話についてもまさしく、今年8月に実施しました、この地区の津波ハザードマップの地域の説明会したときにもいただいておりまして、昔の雇用促進

住宅ありますよね、今あそこが北洋大学さんのほうで、今工事といたしますか、しております。このことについては、北洋大学に確認いたしましたところ、まだ詳細については明らかにできませんけれども、そういう動きもありますので、活用できる、何らかの形で活用する際には、当然に協力いたしますというお答えもしております、8月のこの地域の説明会の中でも、それこそお答えをさせていただいておりますので、それがいつになるかというところは、ちょっと相手があるわけですから、この場で明言はできませんけども、一応、その方向を協議を進めております。以上です。

◆市民 よろしくお願ひします。

○司会 それでは、次の方。

◆市民 こんにちは、すずらん町内会の■■■■と申します。よろしくお願ひいたします。

今の錦西町内会の方とほぼ同じ質問なんですけれども、3階建てのビル、この地域内に建てるみたいなことをおっしゃってたんですけれど、それは、今聞いたら、いつになるか分かんない、雇用促進の方と相談してやるというお話でしたけれども、その前に、相談したり、何かしてるうちに、その前にもしかして来たりしたらどうなるのかなと、本当に心配なんですよね。それで、うちの周りというか、すずらん町内会なんですけど、高い建物ってないんですよね。だから、もう本当に真剣になって考えてほしいです。

○司会 回答、お願ひします。

◎危機管理室長 ご質問ありがとうございます。こちらにつきましても危機管理室、前田のほうからお答えさせていただきますけれども、ご心配はそのとおりだと思います。本当に今回も大きな想定が発表されております。ただ、先ほどもご説明したとおり、今回の津波の発生の可能性というのが非常に大きな期間の中で想定をされているというところはありますけれども、ただ、想定がある以上、我々このことにしっかりと対策を取っていきたいとは思っております。

ただ、その中で、順番としましては、先ほどご覧いただいた中で、やっぱり海側のほうはどうやっても、水平避難をしようと思っても、垂直避難をしようと思っても難しいという部分がありますので、まずはそちらから詰めていきたいというふうには思っております。ただ、あわせて、すずらんについては該当する建物はなかなか見つからないんですけれども、ほかの地域の中で今ある建物、これは公営の建物もありますし、民間の建物もありますけれども、そういった一定の高い建物があれば、何とか津波の施設として、ご利用いただけるような調整をしていきたいと思っております。ただ、そこでも何ともならないというところについては、先ほどもご説明さしあげたとおり、国なんかでもいろいろと財源を出すというような動きもありますので、そういったものは、先ほど言った段階を踏まえて、やっぱりなかなかうまくいかないというところについては、何らかのそういう施設整備というものができないかなと、こういうことも進めていきたいと思っておりますが、本当にご心配は分かるんですけども、ちょっと中長期のお時間をいただきながら、一つ一つ解決をしていきたいというふうには思っておりますし、このクラスの地震でないとしても、津波でないとしても、もう少し低い高さの津波の可能性もありますので、そういった意味では、

先ほど申し上げたような津波避難の原則というのに基づいて、今の状況でどんな避難できるかなということを地域の皆様とか個人の方でもお考えいただきたいと思いますし、その際にどんな方法があるんだということがもしありましたら、市のほうに声かけていただければ一緒に考えていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

◎市長 それさ、ハザードマップの段階で避難ビルの情報というのはどの程度あるわけ。

◎危機管理室長 今の段階で、例えば市の施設なんかはすぐに……。

◎市長 公共施設は。

◎危機管理室長 はい。例えば、平成24年に比べて、昔は浸水区域でなかったけれども、新しく浸水区域になったエリアに公共施設もありますので、そこは得られると思ってます。例えば、民間のマンションですとか、そういったところは、まずは協議を進めているんですが、そこについてはちょっと相手があるお話ですので、この年度末までに入るかどうかというところは、ちょっとそこは断言できませんけども、可能な限り、そこまでに整理がついたところについては入れて、今は水平避難中心のハザードマップをお示ししてますけども、垂直を入れたマップを少しでも作れるように努力をしていきたいというふうに思っております。

◎市長 結局、民間の施設の場合には、仮に協定を結んで、いいよと言っても、じゃあ、その施設が会社だったら、夜は人がいない、夜にそういうことが発生した場合に、じゃあ、鍵の管理はどうするかとか、結構面倒くさい話の協議が必要なので、公共施設ならそんなこと関係ないんですが、そこは一定の時間が必要だということをご理解いただきたいと思います。

○司会 そのほかの方、いらっしゃいますか。いかがでしょうか。はい、じゃあ、今マイクをお持ちします。

◆市民 スプリングタウン町内会の [REDACTED] です。

要望書の中には、気づかないで、うちの町内会、特に要望は出さなかったんですけども、最近、切実な問題で、せっかく防災用のスピーカーというのを、あれを町内会には、学校とこの5号公園とか町内会の参加者というのは人の、話す人によっては聞きづらいかぐらいの程度だったんです。ところが、それを全部取り払って、せっかくお金をかけてやったと思うんですが、錦岡地区には3か所、大きくなって、前よりはそれ解消しましたということでつけたんですね。ところが、僕も何を言ってるのかという、その3か所がミキシングしてる、それと反響ですか、こだましてるんですよ。全然分からない。前より悪くなったんですよ。せっかく説明、防災無線なんかを配ったりして、今度はよくなりますよと言ったのに前より悪い。町内会の個人でも、俺も何回も市役所に電話したんだけど、よくなるよねという話を最近聞いたもんだから、いや、確かに、いざというときに、防災、防災無線が、市の広報の放送聞こえないんでね。特に女性の声は逆に駄目だな。3か所の声が聞こえちゃうと、時間差で1秒遅れで聞こえてくる。そうしたらまたそれが跳ね返ってくるから。

この前ちょっと、僕、参議院選挙のときにも何か言ってるのと、参議院というようなことで、ああ、これ選挙のこの今日投票日だから行きましようとか言ってるのかなと、参議院と言うだ

けなの。何か、要するにこだまを解消する方法、それ考え、いや、何回も来てると思うんですよ。多分そうだと思う。だけどそれ大きなあれだから、業者が専門家つけてきたから何でもないというふうにして工夫したんだろうけども、もうたしかあれ3年前ですよ、替えたの、直ってないです。お金使わなくても直す方法って、何か音響工学の方がいないのかなと思うんですよ。僕は反響は、山とかうちに反響するんだと思うんです。だからもう少し、角度か何かで解消できないかなと思うんですが、どうなんでしょうか。そういうことです。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎危機管理室長 防災屋外行政無線のお話になりますので、こちらも前田のほうからお答えをさせていただきますけれども、こちらの屋外スピーカーですね、もともと樽前の関係で、この地域はもともとついてたんですけども、令和3年度ですけれども、全市に新しいデジタル化のスピーカーで導入作業をさせていただきました。その結果、今■■■■さんからもお話あったように、やっぱり聞こえ方のご指摘、いろいろいただいております。そもそも聞こえないというご指摘もありましたし、今ご指摘あったように、スピーカー同士の音が反響するというようなお話も聞いております。

この件については、なかなか全部を一遍に解消するということは難しい面はあるんですけども、ちょっと改めて、今お話になった3地点のバランスというものを改めて見ていながら、ほかの地点ではスピーカーの角度を調整するですとかいうことで解消した地点もございますので、その辺は検討させていただきたいと思います。あとは、話すスピードですとか、あるいは、話す前にチャイムなんかも鳴りますので、そういったものの使い方ですとか、ちょっといろいろとまだこれからも改善をしていながら、やっぱりこれ、皆様に届いて初めて避難行動が伝わる大事な媒体となりますので、その辺の改善はしていきたいと思います。ただいまご指摘の点については、一度、改めて配置状況を見ながら少し調整ができないかどうか、検討させていただきたいと思えます。以上です。

◆市民 よろしく申し上げます。

○司会 そのほかございますか。はい、申し上げます。

◆市民 北星町の■■■■といます。すずらん町内会の■■■■やっております。今の防災行政無線に関してなんですが、実はこれ、昨年と今年、実はうちの町内会、特に危機管理室さんと相談して試験放送をやりました。うちの町内会では、今スピーカーが2基ついております。それで、設置当初から、やはり今お話あったように、非常に聞きにくいと、何を言っているか全然聞き取れないというような声があったんで、じゃあ、どの範囲でどの程度の聞き取り具合なのかということで、実際にやってみました。2回に分けて。それで、実際にやった方法というのは、うちの町内会の加入の全世帯に、実際にいつ、何時にどういう放送の内容を流しますよと、それで実際、家の中でもいい、外でもいい、どのように聞こえるのか、そのアンケート調査に協力してほしいということをやりました。1回目のときは、実際に放送される時間までお知らせしてやりました。2回目のときは放送日のみ、時間はお知らせしません。ただし、放送内容については前回と同じようにお知らせしてやったんですが、1回目のときは皆さんある程度聞いててくれました。放送時間

が分かったたので意識していました。2回目のときは放送される時間が全く分からない、何とか聞こうと思って聞いてくれてる方はおられました。でも、何時に放送されるか分からないということで、いわゆる日常生活をしている中で聞いてたんで、その結果は、1回目も2回目もほとんど変わらないです。まだ聞こえるところは聞こえる、聞こえないところは全く聞こえない。放送があったのは分かったけれども、何を言ってるか内容が全く聞き取れないというようなことでした。それで、なおかつ、その中でもって意見として出てきたのは、今の戸別受信機というのがございますね。これ、今1世帯は負担1,000円ですか、あ、3,000円ですか、でもって設置できるのはなってるんですけども、まず、なぜこういうように聞こえないような状況にあるにもかかわらず、そんな負担をしてまで全戸に、自分でもって受信機をつけなきゃいけないのかと、おかしんじゃないかという声があるんですよ。これ、市のほうで全戸に無料で何とか設置できないんだらうかという声が多いものですから、無線の今の設置の方法、それから、今の話した戸別受信機の設置についても、ちょっとその辺、市のほうのお考えも知りたいし、ちょっと検討していただけるのかどうかということをちょっとお願いしたいなと思っています。

○司会 それでは、回答をお願いいたします。

◎危機管理室長 引き続き、危機管理室、前田からお答えをさせていただきます。この防災行政無線の件では、いろいろとアンケート結果をいただいております。ありがとうございます。

市といたしましては、今回こういう屋外スピーカーを設置した中で、やはり聞こえづらいというお声をいただいております。去年はそういった声をいただいた中で、正直に申し上げて、なかなか、北海道の住環境の中で、例えば雨とか降っている中で、言葉までしっかりと明瞭に聞こえるような音というのは、なかなか難しいなと思っている中で、少なくともチャイムですとかサイレン、あれが鳴っているということはお知らせできるように、その辺の音質の改良は昨年したところでありまして。今説明したような津波ですとか地震のような大きなことがあれば、そういうサイレン、チャイムが鳴ることによって、例えばテレビをつければその情報があるですとか、そのスピーカーだけではない、例えば、今私どものほうも防災のメール配信というサービスをしております。あるいは、今会長がお話になったような戸別受信機は、これは原則、一般の方は3,000円でお貸しをしているものではありませんけども、そういったいろんな媒体を使って、何とかサイレン、チャイムが分かったところでほかの媒体、テレビですとかそういったものも含めて、何とか情報をお届けできればなという思いでやっておりますけども、なかなか完璧なものではできてないというのが実態だというふうに思います。

ただ、戸別受信機につきましては、今段階で無料でお配りしている方もいらっしゃるんですけども、それは避難行動要支援者といひまして、避難に時間にかかる方で、私どものほうの名簿に登録している方については無料でお配りしております。それ以外の方については、大変申し訳ありませんが、3,000円を頂いているところでありまして。それ以外に、先ほど申し上げたようなメールですとか、あるいはSNSということで、フェイスブックですとか、LINEですとか、10年前とは違っていろんな媒体で今情報発信するようにしておりますので、こういったものを組み合わせる中

で、皆様方の環境の中で合う情報の入手方法というものをうまく探していただければなというのが、今段階の市の考え方となっております。以上です。

○司会 そのほかございますでしょうか。

◆市民 樽前町内会の■■■■です。

本当は何点かお聞きしたかったんですけども、鹿対策でありますとか、空き家の利活用の問題でありますとか、市街化調整区域の問題でありますとか、幾つかお願いしたいことはあったんですけども、1点だけということですので、9番目の樽前小学校の特認児童への通学バスの運行に関してお願いをしたいと思えます。ご存じのように、苫小牧市で初のといたしまして、唯一の特認校として樽前小学校が今新しく、再来年度、新しい校舎に生まれ変わることになります。これは苫小牧市のほうで100周年を記念してといたしまして、学校を新しくしていただけるということで、大変ありがたく思っております。ただ、残念ながら、地元の子がもうあと数年で誰もいなくなってしまうという状況になっておりまして、人口減、世帯減が著しく進んでいる地域であります。せっかく何億円もかけて造っていただく校舎なんですけども、すばらしい校舎と自然と、そしてアスレチックなども造っていただけるということで、大変ありがたいんですが、その特認校を何とか維持していかねばならないじゃないかと思うんです。

ところが、今遠い子は拓勇のほうから通ってきてる。低学年、1年生の子が、もう1時間ほどかけて通学してきているんですね。帰りもそうです。その要因が、距離的な問題もありますけども、錦西のターミナルで乗り換えしなきゃならないんですよ。そうすると、特に帰りなんかは待ち時間ができてしまうんですよ。遠いところから通っている子供なんかはそれだけでも時間かかるのに、待ち時間で数十分をターミナルで時を過ごすというようなことがあります。体力的な負担でありますとか、安全面でありますとか、防犯上の問題で大変心配をしているところなんです。それで何とか通学バスをお願いできないかということでお願いしたんですが、今回いろいろと、いろんな要望に対しては本当に前向きに答えていただいて、大変ありがたいと思うんですけど、この通学バスの件についても前向きに回答していただきました。

ただ、その回答の中で、読んだらお分かりのように、ほとんど財政的な問題なんですよ。多額の費用がかかるということで、これは無理ということなんですけども、私たちはお金の問題で言っているんじゃないくて、確かにこうやっているような面では補助していただいて、ありがたく思っておりますし、PTAの方も助かってるというお話で今までいただいておりますが、実は、先ほど言ったように、体力的な問題でありますとか、安全面の問題が非常に大きな問題としてありますので、何とか特認校を維持するためにどうしたらいいのかということで、PRや何かもちろん毎年やってるんです。今まで以上にまたやらなきゃならないなとは思ってるんですけども、やっぱり一番ネックになるのは、そういう通学上のデメリットというか、それがやっぱり一番、通わせる親御さんにとっても子供さんにとっても負担になるということで、何とか特認校を維持するためにはその問題を解消できないかなということなんです。特別、樽前小学校に通う子供たちについては、乗換えなしで直通で来るという、学校に通えるという、そういうことなんかも配慮していた

できればいいのかなと思ったりしているんですよね。せっかく建てていただいた学校をこれからも維持、発展させるために、何とかそういう面での工夫をこれからもちょっと考えていただければありがたいなと思ってます。それとまた、この場を借りて、ここに近隣の町内会の方がたくさんお集まりですので、ぜひ地域のお子さんに樽前小学校がこういう学校であるんだよということで宣伝していただいて、近隣から通われるお子さんが増えれば大変ありがたいなと思ってますので、ついでにこの場でお願いをしまして、私のほうのお願いを終わりたいと思います。

○司会 それでは、通学バスの件について、回答をお願いします。

◎学校教育課長 私、教育委員会学校教育課長の神保と申します。いつも樽前小学校の、今回、改築等々へ住民説明会等々、いろいろご協力いただきましてありがとうございます。今ご質問のありました通学バスに関しまして、私たちも子供さんたちの待ち時間というところを認識はしております。いろいろ通学、直通のバスの運行が可能かどうかというところも一度探ってみたこともあります。財政的な面の回答という形になってしまいましたけれども、実は自宅から最寄りの停留所まで、もし通学バス直通ということになりますと、今の路線バスのバス停、1個1個つなぐというふうな形が難しいようなんです。そうすると、どこか拠点となるバス停まで朝、そして学校帰り、親御さんがそこまで送迎しなければならぬと、そういう負担も可能性としてはあるということも実は懸念がありまして、なかなか難しい問題だなということで、今そのほかにどういった方策があるかなということは今検討してる段階です。

錦西の営業所から学校までに関しては、全てバスの席代を委員会のほうで負担をしているんですけども、最寄りの停留所から錦西の営業所までのバスの定期代については市のほうで半分負担をしていますけども、例えば残りの半分を負担して、じゃあ親御さんの負担を少しでも軽減できればというふうな考えも一つありますし、あと、通学バスにしたときの、その最寄りのバス停までの送迎の部分というのを、その親御さんの負担というところをどうやって軽減できるかなということも、なかなかちょっと難しいなというふうに考えているんですけども、そのような方策がほかにないかというところを今ちょっと検討している段階なんです。新しく、再来年の2学期から樽前小学校開校する予定ではありますけれども、その前に最良の方法がないかどうかという、もう少しちょっとお時間をいただければというふうに思っています。すみません。

○司会 そのほかございますでしょうか。前の方。

◆市民 もえぎ町内会の■■■■の■■■と申します。

平時はもう大体分かっているんですけども、ここの避難所の話なんですけど、避難するところということで、前回出しました。それで、こちらの提案そのままという格好なんです。実はふと、避難所でも何でもなくて、あれ道路なんです。道路の地図なんです。角というのは、たまたま車が曲がるから、そこの三角のところは空くだらうということで、私、提案したんですよ。そのままそれが、このさっきの地図の、あそこになってるんですよ。何の工夫もないじゃないですか。あれは私がたまたま避難する場所がないからということで、あそこでどうでしょうという話になったわけです。だけど、あそこ道路ですよ。道路、道路の中に避難してるんですよ。それ

で、私ちょっと何日か前に、右側に三角地帯ありますよね。上がっていくときの入り口の右側、あそこは100人やそこらは入っても何でもないくらい広いですよ、緑地になって。実はその向かい側に、すずらんさんの上がる場所があるんです。それで、私、気づかなかったんですけど、山のほうの、以前避難したところがあったんです。あそこはもう非常に簡単なんです。そして、こっち側の私自身言った、やぶを越えて道路のほうに行くように検討してもらえませんかということでは、ところが、これ多分1年ぐらい、去年の秋になかったと思います、私、見たときには、それがね、この間行ったら、看板が入ってるんですよ、看板かかっている、そこに。ごみの投げ捨てと、それから無断立入禁止ということで、幅1メートルぐらいの何か白いね、ぼんっとかかかっている、それご存じですか、市のほうでは。

○司会 はい、お願いします。場所、分かりますでしょうか。

◆危機管理室長 今避難路の関係のお話ありましたけど、私のほうで代表してお答えをさせていただきますけども、まず今お話のあった避難路の部分につきましては、これは、今8月に結論的なハザードマップの説明会をした際にも申し上げましたけども、地域の方からいろんな声をいただきながら、いろいろと見直しをしようという中で、一応この場所、私有地になりますので、ちょっとその場所の活用についても、これから、ほかの地域からも同じようなお話がございますので、その辺の調整はしていこうというふうには思っているところでございます。そこが反映できるかどうか、ちょっとこの段階では定かではありませんけども、そのような取組はしていきたいというふうに思っております。その中で、今あった看板のことについては、すみません、今私のほうでは、ちょっとまだそこは押さえておりませんので、改めて確認をして、その状況も含めて、一度、現地見させていただければというふうに思っております。

◆市民 こちらから何か言って、向こうで、角立てて看板をつけたのではないよね。

◎危機管理室長 特にこちらでは、そこについてのアプローチはまだしておりませんので、そういうことではないというふうには認識はしております。

○司会 それでは、看板の場所については、この会が終わりましたら、個別に教えていただきたいと思っております。そのほか、皆様のほうからございますでしょうか。また同じ方になりますが、そのほかの方いませんか、大丈夫ですか。よろしいですか。そうしたら、こちらが優先で。

◆市民 ちょっと今同じ話なんですよね。もえぎ町、毎年、大津波避難訓練ということを毎年やっております。それで、大津波ということで、高台に逃げようということで今言った場所、15、6メートルのところへ避難してやっているわけです。これが、冬期間にですね、冬期間はみんな凍って死んじゃうんじゃないか、そういう心配があるんですよ。ですから、この上のほうの建物、個人の、介護施設なんかがありますから、そこまで上がるのは大変ですけども、何かそういう対策を含めて考えていただきたいと思っております。それだけです。それはお願いになります。

○司会 それでは、ご回答をお願いします。

◎危機管理室長 危機管理室の前田でございます。今お話がありました冬期の避難、もちろん今回の想定の中でも大変大きな問題となっております。苫小牧だけではなくて、この冬期の避難で低体温症

というものが、せっかく避難をしても、その後、低体温症で亡くなるということも、この北海道の津波訓練の場合には想定をされております。そういったことも含めて、まずは私どもとしては、水平避難の先に建物に入っていけるような、そういうもののハザードマップを作っていきたいというふうには思っておりますけども、なかなか、かなりの人数の収容が必要となりますので、今この段階で全てをすぐに使用できる形では、まだ整理できないかもしれませんけども、この点につきましても、先ほど来申し上げておりますが、一定の時間をいただきながら、そういう低体温症にもできるような取組をしていきたいというふうに思っておりますし、このもえぎ町の場合には近くに特別支援学校がありますけども、川を渡った先になるものですから、初めはできましたらオーシャンヒルズのほうに逃げていただきたいと。その上で津波が一定程度引いた後、3時間、4時間、半日たって、引いた後には何とかその学校に行っていただければなというのが現段階の考えにはなっておりますけども、こういった低体温症のことにつきましても少し、一定のお時間にかかるかもしれませんが、少しでもそういったリスクが減るように取組をしていきたいというふうに思っております。以上です。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 それでは、ほかにいらっしゃいますでしょうか。はい、それでは、こちら。

◆市民 明德町1丁目町内会の■■■、■■■と申します。

最近、集中豪雨が、雨のことでちょっといいですか。アルテンのところへ走ってる覚生川がありますよね。今覚生川の上流で、樽前山噴火のための泥流止めタンクを造ってるんですよ。アルテンの奥に1か所、横長で造ってある。その上にまた新たに造っている。それが周りの木を伐採して、タンクをずっと並べて造ってる。確かに樽前山噴火したら泥流はそこで止まるかもしれないけども、木を切ってるために、雨、あの辺で降ったらもう鉄砲水が覚生川のほうにわあっと来たら、ダムがないから、あそこにはアルテンもあるし、北のほうには住宅も数軒あって、下のほうには障害者施設もある。もしくは、すずらん町内会とか錦西のほうも近い。あそこは過去に、72年前に、昭和25年に噴火、川が氾濫して、列車が転覆して16名が死んで、33名が重軽傷を負った暴れ川なんです。それが、いまだにあそこは何も整備してない。かさ上げもしてないし、もし最近、雨が、とんでもない雨降る、1時間に何百ミリ。72年前は1日の雨というのは500ミリ、物すごい雨だったらしいですね、当時の古い人に聞いたら。そこに列車が突っ込んで、ちょうど苫小牧から修学旅行へ行く子供たちが乗ってそこに突っ込んだ。33名、重軽傷負って、116名は死んでる。もし最近、集中豪雨が降ったら、あの川は大丈夫なのかなとちょっとそういう心配もあるんですね。その辺ちょっとよろしくお願いします。

○司会 それでは、河川の関係ですね。よろしくお願いします。

◎都市建設部次長 都市建設部次長の清野と申します。河川の管理を都市建設部のほうでしてございますが、今ご指摘のとおり、最近の雨の降り方が物すごく、川の流れがすごいことになっているというのは、状況はよく把握しております。また市内何か所か、平成25年、26年のときにも、すごい雨が降った後に河川改修等して、断面を広げるなど改修をしてきたところでございますが、

覚生川に関しましてはまだちょっとそういった改修はしてないようなところではございます。先ほど言われてましたように、上流、木がなくなって、水が多く流れてくる、あと土砂等も結構流れてきて、その土砂が川の流れを阻害するというような原因にもなるというふうに考えてございます。現在、河川の維持管理の中で、そういった阻害する土砂ですとか、河川の断面の中に伸びてる木ですとか、そういったものをきちっと伐採して流れを確保するというような、そういった川のしゅんせつ事業というものをきちっと管理の中でやってございますので、できるだけそういった流れができるようにというふうな対応は、今現在してるというふうなところでございます。

○司会 よろしいでしょうか。そのほかございますでしょうか。もしなければ、先ほどの方、もう一度、よろしいですか、皆さん。それでは。

◆市民 すみません、2度目になります。すずらん町内会の■■■■といたします。

今防災の関係だとか、いろいろお話が出てる中で、ちょっと話がずれるんですけども、実は市役所の窓口のことについて、ちょっとお伺いしたいなと思っているんです。私もよく市役所に行きます。1階は基本的にはいろんな住民が出入りしてると、まとめてその対応がよくできてると思っております。ところが、2階から上の窓口対応のことなんですが、行くと、ある部署によっては、カウンターへ行ってもなかなか職員が対応してくれないと、気づかないと、声がけしても返事もないと。

◎市長 2階。

◆市民 2階以上。2階から上の階です、フロアです。それで、どうしてなんだろうかと、いつも行くたびに思うのは、今一番気になるのが、行った各部署のカウンターの付近に書庫があったり、書棚ですね、それからキャビネット、それからプリンター、そういうもの並べて、各職員の席というのは全部奥にあるんですよ。それで今特にコロナの関係もあることですから、飛沫防止、防ぐためにビニールシートをかぶせてますよね。その関係もあってなおかつなんでしょうけれども、普通に声かけても全然聞こえないのか、反応が全くない。実は私、1回だけ、大きい声出したことがあるんですよ。それで初めて気がついたというようなことがありまして、その繰り返しなんですよ。これは何とかならないのかといつも思って、実は私、行ったときに、お子さん連れの親子が窓口へ来たときに誰も対応してくれないでおろおろしてたんで、たまたま後ろを通った職員の声かけてして呼んでもらったんですけども、それで初めてという対応なんですよ。これは、なぜこういうような今配置に、席になっているのか、なぜこういうような対応になっているのか、それをちょっとお伺いしたいなと思って。今日のこの席で言うべき、聞くべき話なのかどうか、ちょっと迷ったんですけども、結局、今市長さんがおられるんで、ちょっとその辺をお聞かせいただきたいなと思ってるところでございます。

◎市長 今1階は市の職員じゃない部署もあります。民間に委託してるんですが、2階以上は全部市の職員になっています。今ご指摘をいただいたので、我々もずっと市民のための市役所づくりという、そういうものを内部でも発信しながらやっているんで、総点検をします。これ、どこ、総務

部長か、これ、市民生活部長。

◆市民 申し訳ないですけど、別にどこの部署という、全般的にそうなので。

◎市長 点検は第三者的視点で点検しないと点検にならないので、その部署でやれといったら、みんなごまかすんですよ。だから、やっぱり第三者的視点でチェックしていきます。実際どうなのか。ただ、市民の皆さんが行くフロアというのは、今は限られてます。ですから、そんなに全フロアというわけではありません。ほとんどはもう1階に集中していますので。

◆市民 いや、町内会関係の役所に提出するものだとかね。

◎市長 ああ、町内会の。

◆市民 いろんなのがあるんですよ、各階というか。今年も3つかな、秘書課だとかいろいろ行ったんですけど、近くにはいませんよね、ちょっとでかい声出して、すみませんと言わないと来ませんよね。

◎市長 それはどうなの、市民生活部長、どうなの、これ。いや、例えば町内会の場合にはワンストップで、ここに行ってこれとこれ届けてもらえますかで済むでしょう。1回1回、全部行かなくても。

◆市民 いや、この書類は持ってきてくださいというのがあんの、届けてくださいというのがね。

◎市長 うん。だから、町内会担当のフロアありますよね、町内会が担当してる部署。

◆市民 町内会担当フロア、はい。

◎市長 そこで持ってって、これはここ、これはこことって、あと内部でやらせればいいじゃないですか。わざわざ自分で行かないで。どういう、いろんなケースあるかもしれませんけど。

◎市民生活部長 市民生活部長の野見山と申します。今ご指摘いただきました窓口対応ですけれども、私も職員のほうも接遇研修などをやって、市長の仰せられたように市民のための市役所ということで目指してるところですが、そういうご指摘をいただいておりますので、そのところは職員を管理する担当部局のほうにもお話をさせていただいて、市長おっしゃられた点検というところをさせていただきたいと思います。町内会の関係の部分につきましては、一応、市民生活部の市民生活課が担当させていただいております。もしかしたらそこでも、呼ばなければ出て来ないような状況になっている部分かもしれません。それは私の指導の悪さになりますので、もしあったら、今この場でおわびをしたいと思います。町内会に関する書類については、基本的には市民生活課のほうで対応させていただいてます。ただ、その時々書類によっては、担当の部署のほうに直接、もしかしたら持っていかなければならない部分もあるかとは思いますが、そういう場合も私どものほうの市民生活課のほうにお声をかけていただいて、お渡しして済むものであれば柔軟に対応はさせていただきますので、その辺のところはぜひ、私どもの窓口のほうにお声をかけていただければというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

◎市長 要は、やっぱり、利便性の向上を考えたときに、いかに市民の皆さんが来たときにワンストップ、一括で全てできるかということをお心掛けてやってるつもりなんですね。ですから、町内会関係であれば、全部、担当窓口がありますから、そこに行くし、書類を持って説明しなければいけ

ないようなケースの場合には、そこはご自身で行って、説明しながら書類渡すということが必要かもしれませんが、基本的には市民生活部のほうで全部、これ頼むわって、秘書課に届けてくれとか、それで十分じゃないですかね。

◆市民 直接、秘書課に行ったほうがいいんじゃない、じゃあ。たまたま広報もらいにいっただけなんだけど、本当はね、この間ね。

◎市長 そういうケースはいいですけど、面倒くさかったら窓口がありますから、今事務局は市役所でやってますから、町連さんの。ですから、それは臨機応変にやってもらってもいいですよ。縦割りの打破をやってますから。

◆市民 でも、あれ市長さんがそう言うなら、そのとおりでと思う。それでオーケーかと思うんです。私が言いたいのは、そのことだけじゃなく、まず、住民が直接出向く窓口、さっき言ったようなキャビネットだとかコピー機だとか、そういったもの並べて、職員の席が全部奥なのか。あれがあったら、住民を窓口に来させないのと同じじゃないですか。まるっきり見えないですよ、職員は。まず行って目につくのは、そういった備品関係だけ、ボンと目に飛び込んでくるのは。要は、それは1階は全部終わらせろという話なんですかね、違うでしょう。

◎市長 いやいや、具体的に、例えば4階行きましたって、4階ではそういう市民対応になってない部署があれば、それは改善できる話ですから。

◆市民 だから、そこのところも、もう一度、もっと、職員目線じゃなく、どういうところであっても、市役所ってオープンでしょう。一般住民だって、市民だって、窓口に行くわけですよ、1階に限らず、2階でも3階でも。そういった、行った先の窓口が、これカウンターがそういうような状況で、果たしていいんですかということを知りたいんです。

◎市長 ああ。いや、それだから、点検しますよ。それよくないですよ。例えば、2階もあるし、3階もあるし、都市建なんかはもう市民が来られるところがあるので、そういうところのシチュエーションを点検して、できる限り窓口サイドをオープンにして、何か声かけたら聞こえるようにするというような努力は全然できる話なので。

◆市民 そうですね。

◎市長 気がついてないだけだから。これ、都市建から見たらどう。

◎副市長 私も元都市建部にいました。各フロアとか部の職員の机の配置だとか、それにキャビネットって、どうしても柱にあるところは、そういうところに配置するように、最初に図面に落として、職員の数がちゃんと収まるような配置を考えながらやってきたのは事実です。ただ、今こういった時代に、先ほど市長もお話しされてますけども、来られる方にご不便をかけているのであれば、それは我々としても見直しをしなければならぬですし、特に今先ほどちらっと触れられていたけど、コロナの関係でビニールをかけて、それは言い訳になります。ただの言い訳で、職員何人もいる中で、誰か1人、お客さん来たぞと声かければ済む話ですんで、そこも含めて、先ほど市長がお約束させてもらいますし、私も約束します。明日、きちっと、全体的な話は総務部についての担当がありますので、今日ご指摘いただいたところを踏まえて、ちょっと総点検をしながら

ら、改善できるところは改善するよという事で指示を出しますので、今日のところはそうやってちょっとご理解をいただきたいと思います。確かに、都市建とか上下水道は図面を置いたりとか、いろんなのを置くんで、どうしても手前側、手前側って、奥のほうに職員が来る配置になってますので、そこは、例えば、ふだん使わないようだったら、どこか別なところに置くとか、ちょっと工夫をさせていただくという事で、まずはご理解いただきたいと思います。ここは、明日ちゃんと指示をしますよという事でございます。よろしくどうぞお願いします。

○司会 そろそろお時間も近づいてまいりましたが、皆様、いかがでしょうか、ご質問ある方いらっしゃいますか。

◆市民 2回目いいですか。

○司会 はい。

◆市民 いいですか。コロナの問題なんですけど、一応、北海道では札幌が一番多いんですけど、でも、胆振では苫小牧が一番多いんですよ。毎回、毎回。それで、これは個人情報かと思うんですけど、だから、何ていうんですか、テレビとか何かで発表しないと思うんですけども、市中感染も多いかと思うんですけども、でも、施設関係が多いと聞いておりました。それで病院関係、それで先日、私ちょっと病院、遠いんですけど、かかりつけの病院行ったんですね、やってると思って、それで診察もやってると思って。そうしましたら、診察はしてません。遠いのに、わざわざ時間をかけて行って、それで診察はしてません。じゃあ、お薬だけでも頂けますかと言ったら、お薬、じゃあ1か月分だけしか出せません。先生がいないから、出せません。こういう話だったんですよ。ですから、そういうことがあるんで、さっきも言いましたように個人情報かもしれませんけれども、一応、何らかの形で、もう少し苫小牧のこういうコロナのクラスター、そういうちょっと把握をしても、発表していただいてもいいんじゃないかなと思うんですけども、どうなんでしょうかね。

○司会 それでは、回答お願いいたします。

◎市民生活部長 市民生活部の野見山と申します。ただいまご指摘いただきました、苫小牧市、市内の感染者の情報になりますのは、基本的には個人情報法がございますので、なかなか公表することは難しいんでありますが、感染者の情報を管理しているのは、基本的に北海道になります。今、皆様もご承知かと思いますが、日々の状況については振興局別の公表ということで数が出ております。その後、その周囲、各市町で管内にどれぐらいの感染者がいたかということは、その翌週の月曜に北海道のほうで判定をする形となっております。市におきましても、そういう部分で公表された情報につきましては、皆様のお耳に触れるような取組というのはさせてもらってはいるんですが、なかなか十分ではないというご指摘かなというふうに思っておりますけれども、私どものできる場所につきましては、しっかりと対応はさせていただいておりますが、個人情報の関係もありますので、なかなか難しい部分ではありますが、今やってるものをもう一度見直すことも含めて、ちょっと考えさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

◎市長 あとこれは、感染症法という法律があって、それに基づいて都道府県マターになっているんで

す。ですから、全部北海道がそれぞれの振興局単位で1週間単位で公表する、以前は毎日やっていたんですね。我々そこ触れないわけです。全部、苫小牧の場合には北海道の機関である苫小牧保健所が全部責任を持って、市のほうに情報をいただけるということになっています。

◆市民 ああ、そうなんですか。私は勝手に個人的に市長さんがこういう、何ていうんですか、止めてるんじゃないかなって。

◎市長 そう思ってる方、すごく多いんだけど……。

◆市民 ええ、思ってたんですよ。

◎市長 ただ僕は、おとし2月22日が第1号だったんですね、一昨年の。それ以降、道のルールからフライングしてずっと言ってきたんです。ですから、今も、今日、新聞記者いないから言いますが、今胆振で1週間何人って、以前は8割から9割、苫小牧だったんです。今はあの数字見て、やっぱり西胆振も出てるし、西胆振だけじゃなくて、苫小牧以外の4町も結構出てます。日高でさえ80人台、今出てる状況ですから。ですから、あの数字見て、半分は苫小牧かなと思っていただいて結構です。それにしても多い状況が続いていますが、ただ、感染症病床24床持っている苫小牧市立病院は、まだ病床の余裕はあります。ですから、皆さんやっぱり軽症が多いのと、入院の回転が非常に速い、ただまだ油断はできませんけれども、それから、おとしあたりはECMOを使わざるを得ない患者さんもいたんですが、今はそんなことはありません。それと、医療機関と高齢者福祉施設の感染者数が多くなってるのも事実です。ただ、これも本当は言えないんです。新聞記者いないから言ってますけど、それは事実です。それは、その原因はやっぱり市中感染、圧倒的に市中感染の状況なので、ちょっと懸念していますけれども、僕の個人的感触では、もうそろそろピークアウトをする、これ苫小牧じゃなくて北海道全体がまだ収まってない状況ですが、もうそろそろピークアウト来るというふうに読んでいます。

◆市民 そうですか、本当ですか。

◎市長 大丈夫です。

○司会 それでは、そろそろお時間となりましたので、これで意見交換を終了させていただきます。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たりまして、岩倉市長 よりご挨拶させていただきます。

◎市長 最後までご熱心にいろいろご指摘、ご質問、ご意見いただきまして、ありがとうございます。最後コロナの話なんで、引き続き、苫小牧市としては、1つには感染拡大防止、2つ目には地域経済対策、そして3つ目に市民の健やかな日々、その3つの軸を重点的に、引き続き、感染状況を注視しながら、市民の皆さんが余計な心配をしないように、一生懸命取り組んでまいりたいと、その決意だけはぜひご理解をいただきたいと思います。最後の最後まで本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。ご帰宅後には手洗い、うがいをしっかりしていただきますようお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。